

第5学年 道徳学習指導案

5年 25名

指導者 大櫛 秀明

1 主題名 公德心をもって

2 主題設定の理由

<ねらいとする価値について>

4-(1)	公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にしながら進んで義務を果たす。
-------	---

『日本人の規範意識が低下している。』と言われて久しい。行き過ぎた個人主義、過熱の一途をたどる競争主義、家庭教育力の低下などが、その主な要因であると考えられる。しかし、現在こうした考え方は見直されつつある。先の東日本大震災における日本人の行動によってである。不幸にして起きた地震ではあるが、海外メディアからは、非常事態にもかかわらず秩序が保持されていることなど、日本人の規範意識の高さが絶賛された。これは被災した人々の少しでも心地よい集団生活をしようと、公德心をもって社会生活上のきまりや基本的なモラルを遵守し、互いに迷惑をかけないようにとした心の現れであると考えられる。これらの事象は、諸外国から驚嘆の目をもって見られるとともに、我々日本人自身が、法やきまりを守ることの美しさ・大切さを再認識する機会となった。

しかし、先に述べた規範意識低下の原因が解消されたわけでない。法やきまりを守ることの美しさ・大切さが再認識されている今だからこそ、その意義を理解させることで遵法の精神を高めていくべきである。人々が安全に、安心して暮らすには、まわりの人々に迷惑をかけない、不快な思いをさせないなどの公德心をもつことが大切である。そして、そこから生み出されたマナーやルールを尊重していくことが必要不可欠である。さらに、自他の権利を守り、自分に課された義務をしっかりと果たす態度を育成することが重要であると考えられる。

<子どもの実態について>

本学級は、きまりを守ろうとする意識の強い子どもが多い。規律正しい生活態度、運動会での整然とした様子などは、担任から見てもすばらしいと思う。しかし、それらは自分より目上の者から言われたから守っているという面が多分にあり、きまりについてその意味や必要性を深く理解しているわけではない。また、人間関係を調整する上で、きまりに頼りすぎ、相手の心情や状況を考慮せず判断する傾向がある。さらに、きまりでないなら少々かまわない、他者に見られていなければよいといった弱さももち合わせており、牛乳のストロー袋の処理を「友達どうし確認してから捨てる」というきまりを撤廃したとたんに、給食後、床に落ちている袋が増えるといったことがあった。

本時においては、きまりを守ろうとする遵法の精神と現実の人間の弱さの両面を考えさせる過程を通して、互いに心地よく生活するためには、公德心をもってきまりを守ることが重要であり、それは集団の中で果たすべき義務であることを理解させたい。そして社会を形成する一員としてきまりを守り、よりよい社会を築いていこうとする態度を養いたい。

<教材について>

教材名：ポイ捨てをどうなくす（NHK「道徳ドキュメント」）

ごみのポイ捨てに悩む東京都千代田区。マナーの向上を訴えることで吸い殻をなくそうとしたが効果は少なく、ついに罰金制度が導入されることとなる。「人から見られていなければ…」、「罰がなければ…」など、マナーやルールに対する人間の弱さに押さえながら、そうした弱い心の犠牲となり不快な思いを強いられている人々の心情にふれ、人々がお互い気持ちよく生活するためにはどうすればよいのかこの資料を通して考えさせたい。

3 道徳の時間の指導の工夫

『小川さん』の立場に立って、ポイ捨てをなくすためにどのようにするかを問う。その行動を選択しようとする子どもの考えを引き出すことで道徳的価値に導く展開を探る。(展開Cーア)

4 ねらい

ルールやマナーを守ることの大切さや意味を理解し、公德心をもって生活しようとする態度を養う。

5 展開

学習活動	主な発問と予想される子どもの意識	指導上の留意点
1 きまりについての導入を図る。	○地域や学校でルールやマナーが守られていない場面を見たことはありませんか。	○ねらいとする価値に意識がもてるようにする。
2 教材を視聴し、ポイ捨てをなくすために、自分なら『マナーに訴える』のか、『ルールで取り締まる』のか話し合う。	○みなさんならポイ捨てをなくすためにどうしますか。 《マナーに訴える》 ・罰金制度があっても見えないところで捨てる。 ・自発的にごみを拾う人もいる。 ・心を変えないと行動は変わらない。 《ルールで取り締まる》 ・マナーに訴えても見ていないところで捨てる。 ・罰を厳しくすればなくなると思う。 ・罰がないと弱い心に流されてしまう。	○マナーとルールについて意味を確認する。 ○第三者的な立場から考えさせる。 ○意見を《マナーに訴える》と《ルールで取り締まる》に振り分ける。 ○結論を述べた後に、理由を付け加えさせる。 ○マナーでもルールでもそれを守る心がないと意味がないことに気付かせる。
3 マナーやルールを守る意味について考える。	○「マナーやルールを守ろうとする心が大切」というが、いったいどんな心でしょう。 ・他者に迷惑をかけない心。 ・不特定多数の他者のことを考えて生活しようとする心（公德心）。	○導入時での子どもの発言に結びつける。
4 自分の生き方について振り返る	○自分たちに関わるルールやマナーについて振り返り、今後どうして向かい合っていきたいと思いますか。	○これまでの自分の生活を振り返り、自分の生活と価値が結びつけられるようにする。
5 教師の説話を聞く。	○東日本大震災の際の被災者の行動を紹介する。	○法やきまりを守る心の美しさ・大切さを再認識させる。

6 評価

公德心を持ってマナーやルールを守ることの意味や大切さを理解し、よりよい社会を築いていこうとする態度を養うことができたか、発言をもとに評価する。